

## 平成29年度（第3回）二宮町社会教育委員会議 会議録

日 時：平成29年10月12日（木）13時30分より

場 所：二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1

出席者：（社会教育委員） 野村幸雄委員長、橘川昭夫副委員長、江見千秋委員、  
久保田秀実委員、関口金由紀委員、蓮實茂夫委員、  
三宅栄子委員、目黒美砂緒委員

（事務局） 府川教育長、鐘ヶ江教育部長、椎野生涯学習課長、  
丹羽図書館班長、武井生涯学習・スポーツ班長、  
佐藤主事

傍聴者なし

資料

- ・ 会議次第
- ・ 平成29年度社会教育事業報告（平成29年5月1日～9月15日）
- ・ 社会教育関係団体の補助金について
- ・ 平成29年度放課後子ども教室事業報告
- ・ 二宮町放課後子ども教室サポーターマニュアル 平成29年度
- ・ 県社会教育委員連絡協議会予定

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 議題

#### （1）平成29年度二宮町社会教育事業報告について（5月1日～9月15日）

※事務局より資料に基づいて説明。

（委員長） 愛のパトロールで何か報告事項はあるか。

（事務局） 5回実施したが、特に大きな問題は無かった。今回は、コースの検討をし、  
コースによっては徒歩でパトロールを実施した。

（委 員） 洋上研修の参加者が4人だが。

（事務局） この4人は二宮西中学校の生徒であり、ここ近年の傾向として西中の生徒の  
参加が多いことから、職員が西中の朝礼にお邪魔して、全校生徒に直接募集し  
てみたが集まらなかった。

（委 員） 8月に開催した子どもチャレンジ教室も参加者が少ない。中学生もその傾向が  
あるのかと。

（事務局） 洋上研修で言えば、これまでの申込みはリピーターが多い。その子たちが申込  
みとならないと、なかなか集まらないという状況がある。

（教育長） 今年に限らず、ここ数年は定員の10名が集まっていない。

- (委員) 子どもチャレンジ教室もリピーターの参加が多い。新しい子どもを開拓しなといけない。
- (委員) 8月に町の「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」があり、今年は山西小学校が参加し、ガラスのうさぎを歌う場面があったが、学校からの投げかけが、参加しても参加しなくてもというようなニュアンスで伝わってしまい、半数の児童しか参加しなかった。学校からの投げかけがあったとしても、半数という状況がある。開催期日によるかもしれないが、なかなかそういったところが保護者に響いていかないという現実はある。
- (委員) 今回の報告事項ではないが、先日、子どもチャレンジ教室で「昆虫を探そう」という講座を企画したが、申込者が2名で開催が中止となった。一方で、一色小学校の放課後子ども教室で、虫カゴに入れた昆虫をずっとかわいがっている様子や、登校時に虫カゴを下げている様子があった。そういった様子を見ると、子どもに講座をやることが伝わっていないのではないか。広報紙に掲載しても大人で情報が止まっているのではないかと思う。それを突破するにはどうしたらいいものか。
- (委員) 先日、はぐくみ塾でコミュニティスクールの話があった。その時の講師は、小学校長でもあり、学校が子どもを地域の行事や祭りに出るよう促すべきだという考えをお持ちで、学校からの子どもたちへの投げかけを活発にしているとのことだった。学校の役割は大きいのかなと感じた。
- (委員) 洋上研修だが、1市4町1村の全体で何名なのか。
- (委員長) 100名である。以前は定員を満たしていたが、ここ数年は満たしていない。
- (委員) 個人の意見だが、親がセーブしているのではないだろうか。韓国の船の事故があったこともあり、危険と感じている親もいるのではないか。
- (教育長) 二宮の中学校の全生徒約600人の内、参加した人数は4名だったということだ。
- (事務局) 先ほども話したが、二宮西中学校の朝礼で、職員が寸劇のような形で「洋上研修に行こうよ」と誘ったが、集まらなかった。
- (教育長) 先ほど、学校がカギを握っているのではということだったが、社会環境が変わってきているのではないか。一色小学校区地域再生協議会の部会が呼びかけて結成した、やまゆり合唱団があるが、お年寄りと一緒に子どもたちも合唱してもらえるようにと、小学校で募集チラシを配布する際、ただ子どもに配布するのではなく、各先生から声掛けをしてもらうなど、学校が積極的に取り組んでくれたが、結果は2名だった。よく学校の周知が悪いと言われるがそうではなく、カギを握っているのは保護者で、その保護者に直接どうやって伝えていくかである。
- (委員) 学校のグラウンドをスポーツ少年団のサッカーと野球がメインで使用しているが、その指導者の話を聞くと、年々参加者が減っているという。今年の1年生はサッカーでも4人ということだった。参加するということが、保護者に負担がかかることであるのは間違いないわけであり、今の保護者の感覚はそ

うなってきた。

- (委員) 学校の役割ということだが、学校のイベントの材料を山西小学校区や二宮町に係るものにしたと、ここ数年やってきており、今年は会員が少なくなっている祭囃子と呼び、4団体に来ていただく予定で、少しでも子どもたちが興味を持つきっかけになればと思っている。地域の中にある学校というコンセプトを持ってイベントを組んでいこうと考えてはいるが、それが空回りという部分もある。
- (委員) 洋上研修の、PRしているにも関わらず生徒の参加が少ないということに関連してだが、530 キャンペーンや老人ホームなどへのボランティア関係は生徒の参加が多い。その理由は、高校受験の際にある自己PR書で、ボランティアへの参加をPR書の材料にしている。そういった関係もあるのではと思う。
- (委員長) 子ども自然塾には人が集まっているが、親子で参加するからだろうか。
- (委員) 幼児の参加が多く、小学生になると参加が少なくなっていく。昆虫観察会も幼稚園の年中から参加できるため人数が集まっている。母親も子どもが小学校に行く仕事をするのが多く、子どもも塾や習い事で忙しいが、母親も忙しく生活にゆとりがないという状況ではないか。父親は夜遅くまで働き、母親も仕事をしているとなると、プラスアルファの豊かな体験をするということはなかなか難しい。社会の風潮も、皆で何かやろうという感じも無くなっているのでは。
- (委員) 今の保護者は、休日は休みたいという人が多いと思う。
- (委員) やはり保護者が興味を持たないと子どもが参加しない。今年、子どもチャレンジ教室で「ペットボトルロケットを飛ばそう」という講座をやった。この講座は隔年でやっており、以前は小学3年生以上だったが、今年は小学1年生以上にしたところ、幼稚園年長の子が祖母と一緒に参加してくれた。祖母がペットボトルロケットに興味を持ったようである。そういう保護者がいるといい。
- (委員) 参加人数の件で、図書館のわらべうたの参加は多いようだが。
- (事務局) 1回の定員が15組のところ、平均の参加が11組ぐらいである。年間で登録しているもので、最初の登録は20組ずつぐらいあり、1年通していくと少し減っていくという状況である。
- (教育長) わらべうたには、子育て中で家庭にいる母親が参加している。
- (教育長) 読売新聞で、県内の市町村の昼夜間人口比率の統計で二宮町が最下位という記事があった。二宮の夜の人口を100にすると昼の人口は70ぐらいで、県内最下位だった。中井町は昼間の人口が100を超えていた。二宮には仕事場がなく、働く世代は外へ出ていて、昼間はいない。働く世代に余裕が無いのでは。これが二宮の現状で、大きな課題である。
- (委員) 図書館の小中学生の利用は月どのくらいあるのか。
- (事務局) 数字は無いが、一番多い利用としては60代、続いて40代、50代となる。小学生に関しては、現在、小学2年生全員が利用カードを作るようにしたこともあり、保護者と一緒に来たりとそれなりに利用はある。中学生になると利用は

減ってくる。

- (委員) よくラディアンのラウンジで勉強している子がいるが、その子たちは図書館を利用していないのか。
- (事務局) 利用している子と利用していない子がいるため、現在、図書館に取り込もうといろいろと行っているところである。
- (委員) これまで山西小学校は利用カードを作っていなかったが、今年から作るようになった。一色小学校は、ほとんどの児童が家庭でカードを作っていたが、山西小学校の児童はそうでもなかった。家庭でカードを作るというのは親の意識だと思う。図書館までの距離ではなく、地域によって意識の差がある。
- (事務局) 夏休み前までに家庭での事前登録をお願いして、当日を迎えるという形をとったが、カードを作っていない児童が一色小学校は児童数が少ないとは言え5人ぐらいであったが、山西小学校は十数人という状況だった。印象として一色小学校の児童はやはり図書館に来慣れている感じがした。
- (教育長) 山西小学校の児童は、学校図書館の貸出数が多く、よく利用している。司書の先生や校長先生の働きかけがあつてのことかもしれないが。やはり図書館までが遠いのではないか。
- (事務局) 一色小学校の保護者は、遠くても子どもを連れてくるのではないかと思う。
- (委員長) ラディアンの勉強に来ているということは、いずれ図書館を利用するのでは。
- (事務局) 利用の目的が異なる。本を読みたいと思わなければ、図書館内に入らない。図書館はうるさくしてはいけないなどと、敷居が高いと思っているのかもしれない。
- (教育長) 図書館の利用だが、60代が一番多いと思うのだが。この数字は貸出数なのか、入館者数なのか。
- (事務局) 貸出数になる。入館者数は年代が分からない。50代は、子どもが手を離れた主婦の方などが多い。60代は定年を迎えた男性が増えてくる。40代だと、子育て世代で、子どもを連れてくるという状況だと思う。
- (委員) 中学生の図書館見学および懇談会の参加人数が6名と少ないが。
- (事務局) こちらで絞り込んで参加してもらった。昨年は、図書委員さんに来てもらえるだけ来てもらっていたが、今年は詰めて話しをしたかったので、人数を絞って依頼したためである。
- (委員) どのような内容だったのか。
- (事務局) 中学生の利用を促したいということと、中学生が図書館に自分たち向けのティーンズコーナーを知らないということを経験したので、まずは中学生に知らせるということで、ティーンズコーナーをはじめ図書館を印象付けることから始めている。今後、中学生の意見を取り入れたコーナーにし、自分たちのコーナーだと思うように仕向けようとしているところである。
- (事務局) 参加した生徒の感想としては、「自分たちを大人扱いしてくれて嬉しかった」や、「図書館の書庫の見学などがおもしろかった」など、図書館に興味を示してくれた内容だった。ただ参加した生徒はもともと図書館に興味があるが、図書館に

興味を持たない生徒に、どう利用してもらうのかが課題である。

- (委員長) 神奈川大学のインターシップで学生を2人受け入れているが、図書館司書資格を取るためなのか。
- (事務局) 神奈川大学と二宮町で包括協定を結んでおり、その内容に学生のインターシップ受け入れがある。図書館司書志望というわけではなく、就業体験、職場体験で受け入れており、昨年は理系の学生だったが、今年はたまたま文系の学生で学芸員志望と生涯学習を志望する学生だった。
- (委員) 包括協定の一環で、生涯学習関係で二宮から何か依頼して行ったりしているのか。
- (事務局) ものづくり体験講座ということで小学生を対象に、神大の湘南ひらつかキャンパスにある最先端工作機械、3Dプリンターやレーザーカッターなどを備えているファブラボで、ものづくり体験を昨年から行い、今年も行う予定である。
- (委員) にのみやおはなし会では今年度、二宮中学校の全クラスで朝自習の時間に2回、お話しを行った。中学生なので本選びは悩んだが、私は3年生にノーベル平和賞を受賞したマララさんが国連でスピーチした内容を絵本にしたものを読み、またティーンズコーナーの本を借りて、ティーンズコーナーにこういった本があるよと紹介をした。人を介して発信することで、本に対する興味や図書館に対する好奇心が生まれるかなと思う。二宮西中学校でも1~2年生の道徳の時間をいただく予定で、西中の学校図書館にある本や図書館にある本をブックトークで紹介しようと考えている。学校教育の教育課程の時間は限られていて、外部の人を入れるというのは難しいかもしれないが、少しでも隙間を作ってもらい、社会人の話しや体験を聞くという場を取り入れてもらいたいと思う。
- (委員) 厳しいというのが現実ではあるが、ただそういった講師の方、地域の方を呼んでいないというわけではない。福祉であれば、二宮在住の視覚に障がいがある方のお話しを伺ったりその体験をしたりということもあり、教育課程に組み込んでということは全学年で行ってはいる。ただ、社会教育が求めているような人材を活用しているのかというと、そうではないかもしれない。来年から道徳が教科化されるが、保護者や看護師の方などに来てもらうことを考えており、今年は助産師に来ていただくという計画もある。多岐に渡っているのだから、なかなか表に出て行かない情報でもあるということは知っておいていただきたい。
- (教育長) 一色小学校では来年からコミュニティスクールがスタートするが、社会に開かれた教育課程ということで、例えば、小学1年生の国語や算数ではこういったことを勉強するよということ、地域や保護者に配って、この授業だったら見に行こうとか、この授業だったらお手伝いできるなど、すぐには難しいが、色々なボランティアの方を呼び寄せるような試みを、コミュニティスクールの事業として来年からやろうとしている。子どもチャレンジ教室でも、学校に出張してもらったりなど、おもしろいことが始まりそうな予感はある。
- (事務局) 先ほどのおはなし会の話の補足だが、中学校に行って図書館の宣伝をしてくだ

さるということで、昨年、中学生を図書館に呼んでこういったことをやって、こういった本が図書館に入ったよというチラシを直接配ってもらったところ、その後、生徒が実際に図書館に来てくれた。中学校と連携しながら、進めていけたらと思う。

図書館にここ数年、多額の寄付をして下さる方がいて、その方は、自分が財を成す過程で本がとても役に立ったと、そういう気持ちを子どもたちに伝えたいとおっしゃっていて、今回、二宮中学校の全校生徒の前で、道徳の時間に講演会を行う予定である。学校と図書館が連携して今やっているところであるが、もっと学校と図書館が情報をやりとりしていければと思う。

(委員) 年に1回、学校図書館の担当者と図書館の担当者が協議をする場があるが、これは近隣市町村でもやっているものなのか。

(事務局) あまりやっていないと思う。

(委員) 先日、県の学校図書館協議会有り、その発表の中で、やっと昨年から市の図書館の本を学校に貸し出すことが可能になったという、割と大きな市の発表があった。二宮は小さな規模だから協定などを結ばずに、担当者同士の意志のなかで融通を利かせてということが出来ている。

(委員) 9月の第2回子ども会指導者・青少年指導員合同研修会だが、この子ども会指導者はどの範囲なのか。

(事務局) 地区の子ども会会長や役員を対象に通知を出している。

## (2) 社会教育団体補助金について

※事務局より資料に基づいて説明。

(委員) 資料に記載されている二宮高校相模人形部への補助金は、民芸連の補助金額に含まれているのか。

(事務局) 二宮高校相模人形部へは、民俗芸能のつどいの出演料や活動費として、民芸連の補助金とは別に交付している。

(委員) 資料の収入と支出はどう見ればいいのか。

(事務局) 各団体のその年度の会計で、団体の収入、支出となっている。

(委員) 各団体の収入に補助金も含まれているのか。

(事務局) そうである。

(委員) 体育協会への補助金額は95万で、団体育成費の支出が98万1千円であるが、その差額はどうなっているのか。

(事務局) 体育協会の場合は、会員数による基準があったり、また所属団体数の減があったりとするため、補助金で足りない分は体育協会が補てんしている。

(事務局) 具体的に言うと、補助金の不足分は体育協会の繰越金で運用している。

(教育長) 民芸連と体育協会の所属団体数は。

(事務局) 民芸連は15団体で、体育協会は21団体である。

(教育長) 体育協会は減少傾向なのか。

(事務局) 減少傾向である。子どもの減少や、指導や管理できる者がいなくなったなどや、

体協に所属するメリットが感じられずにやめるといふ団体もある。直近だと太極拳の団体が、お年寄りが多く、町事業への役員協力が難しいということで脱退をしている。

(教育長) 体協に所属するメリットについてだが、補助金を単純に団体数で割ると1団体当たり5万円ぐらいだが、そう単純なものではないのか。

(事務局) 団体数ではなく、団体の会員数で、1~49人まではいくら、50~100人でいくらと約50人単位で決まっており、会員数に合った補助金額となっている。

(教育長) 他市町村はどうなのか。

(事務局) 補助金を渡していなかったり、金額が少ないと思う。ただ二宮町は体育祭と継走大会に役員として協力してもらっている。

(委員長) 文化団体連盟の所属団体数は。

(教育長) 文化団連盟は、各団体が所属しているメリットが無いということで、解散する動きがある。

(事務局) 26団体が加盟している。

(事務局) 子ども会育成会連絡協議会に関してだが、今年度の野外研修は中止となったが、来年度は開催したいという意向が強いことと、数年前から町の主催ではなく、子ども会の自主事業に移行が出来ないと打診していたところ、今回の件を契機に、来年度から子ども会主催の野外研修に移行する形で話が進んでいる。野外研修は子ども会に入っている人を対象とする予定で、子ども会に入会するメリットを強く出してもらい、子育てには、自分たちがやりやすいように工夫ができるメリットを生かしてくださいと町からは伝えている。

### (3) 放課後子ども教室について

※事務局より資料に基づいて説明。

(教育長) 放課後の子どもの居場所づくりということでこの事業は始まり、二宮町でも平成26年度から試行的に、きっかけ作りとして始めているため、まだ回数は少ない。来年、コミュニティスクールが一色小学校で始まり、それ以外の学校が平成31年度に出来るため、行政主導で放課後子ども教室を開くと言うより、地域主導でと考えている。学校に限らず、例えば公園で草むしりの作業をしている時に見守りますよなど、地域の人、地域のボランティアを募って子どもたちを見守ろうといった動きが、進みつつあるところである。コミュニティスクールが定着した段階で、どういった形がいいのか、きっかけ作りという役割は果たしつつあり、それを引き継ぎながら、学校運営協議会に任せるといふ方向に、今後なっていくのではないかと考えている。

(委員長) 平成31年度には全校といふことか。

(教育長) 中学校を含めた全校を予定している。今の学校評議員制度が、コミュニティスクールの場合は学校運営協議会となり、評議員に比べて学校の運営に対して意見を言えるだけでなく、校長先生の学校運営方針を承認できるという権限が与えられている。その代わり、地域の子どもの見守りについては、学校運営

協議会が地域の人に働きかけて、組織化を図って登下校の見守りや放課後の居場所作りなどをやっていただく。地域の大人に積極的に出ていただくということを、学校が投げかけるというより、学校運営協議会が投げかけていくという方向である。

(委員長) 地域との関わりを強くするということか。

(教育長) そうである。

(委員長) 地域の人に関わった方が、いろいろと問題解決が早い。地域の人が学校に関わっていないと学校は大変だと思う。学校側も地域の人を取り組むようにして欲しい。

(教育長) 子どもチャレンジ教室も小学校単位で、出前でやってもらおうと、子どもの参加も増えるはずである。

(委員) 子どもとの接触を多くしていかないと。

(委員) 地域の方は、経験が豊かでゆとりがあって、子どもたちへも良く接して下さると想像できるが、子どもと接する場合には、今の子どもが置かれている状況や、子どもの育ちについて今はどう目指しているかなど、昔の画一的な、子どもにはきちんとやらせるという考え方とは今の教育は違うことを知ってもらわないといけない。今の子どもの成長をどうやったら応援できるか、研修までは言わないが、地域で関わっていただく方には、理解して共通認識の下で子どもを見守らないと、いろいろなトラブルが出てくると思う。コミュニティスクールに向けて、共通認識を地域の方に持ってもらう取り組みがあった方がいいと思う。

(教育長) その通りである。地域の人には遊びを見守るというだけでなく、授業での手伝いや、放課後の無料塾など、遊びに限らず、放課後の生活を見るという意味で、共通理解、共通認識の擦り合わせを行う研修会のようなものを、コミュニティスクール、学校運営協議会で行う必要があると思っている。

(委員) 学校の施設を使うのか。一色小学校区の範囲は、一色、百合が丘、緑が丘があり、それぞれに防災コミュニティセンターや児童館などがある。見守る側のことや、子どもの帰りを考えると、それぞれの地域にある児童館や公園などを利用した方がやりやすいのではと思う。

(教育長) 学校の空間でと限定しなくても、放課後子ども教室の事業を活用することが出来るし、この事業を活用しなくても地域の方々にいろいろと活動してもらうことも出来る。最終的には、地域が盛り上がっていけば。

(委員) 今年度の放課後子ども教室の登録者数が少なくなっているが、その原因で何か考えられることはあるか。

(事務局) 昨年度との変更は、年4回が3回になったことと、一色小学校の開催時期が夏休み明けになったことである。二宮小学校の最終的な登録数が、昨年度に比べ大幅に少なかったとすれば、回数が1回減ったことが登録に影響があったと言えるのではと考えている。ただ、一色小学校と山西小学校の参加登録申込書を夏休み前に配布したため、9月の実施まで夏休みを挟んで1か月以上時間が

空いてしまったことも、保護者から「忘れていた」という声がちらほらあったことを踏まえると、少し影響が出たのではと思っている。

(委員) 学童保育に登録する子は増えているのか。

(委員) 昔に比べ大幅に増えている。かつて4年生以上はほとんど学童の登録が無かったが、今は6年生の登録もあるという状況である。

(委員) 学校教育の場面でだが、地域の人とコンタクトをとったりするコーディネーター的な役割をする方などはいるのか。

(委員) 現在、地域のことなどは教頭先生が窓口となっている。

(委員) 地域の事が分かる人が、学校と地域をつなげる人になって、コーディネーターが上手くできていくと先生の負担も減るのではないかと思う。

(教育長) 国の方で、社会教育法の改正があり、地域学校協働活動推進員という制度が出来た。努力義務ではあるが、そういった制度も出来てきている。

(委員) 経験豊かな地域の人々の努力で、子どもの豊かな教育が出来たらいいなと思う。

## (2) その他

- ・配布資料について事務局より説明。

- ・委員出張関係

  - ※委員より報告

- ・平成29年度二宮社会教育委員関係事業予定について調整。

## 4 閉会 15時36分閉会